

議 事 録

会 議 の 名 称	第 7 回玉里地区小中一貫教育学校建設準備委員会
開 催 日 時	平成 2 8 年 9 月 2 9 日 (木) 1 9 時 0 0 分～
開 催 場 所	玉里保健センター 1 階 集団検診室
出 席 者	<p>【出席委員】 山崎美奈子 小松与士宏 中村 仁樹 久保田浩一 小松崎由美子 遠藤 康子 宮本真由美 額賀 博 箱田 俊男 大山 徳 小林 文雄 塚本 繁雄 圓尾 康子 林 憲昭 笹目 賢一 羽鳥 文雄 園部 文夫 鶴町 文男 関 四郎 亀井 優 藤田 泰正 戸田 見成 荒井 敦 戸田 大我</p> <p>【欠席委員】 石塚 匡巳 瀬畑 誠 田山 憲一 小山田香代 陽美 美由紀 長谷川美智子 田中 周 田上 義明 菊地 和夫 大和田智弘 大槻 良明 山口 淳 小暮 真一</p> <p>【事務局】 加瀬 博正 長谷川正典 石田 進 中村 均 比気 龍司 植田 薫 田山 伸一 外之内信浩 戸塚 聡 田村 直弥</p>
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・小美玉市小中一貫教育基本方針について ・玉里地区小中連携・小小連携推進委員会について ・(仮称) 玉里地区小中一貫校基本構想について ・その他
会 議 資 料	別 紙 (会議次第、 他)
記 録 方 法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 (傍聴者 0人)

【委員長あいさつ】

今回は、議事にある内容を提案できるかと思います。特に学校のこれからのことについて、玉里地区小中連携・小小連携推進委員会の進捗状況、ソフト面、教育内容を説明できるかと思います。時間が限られておりますので、スムーズな進行にご協力をお願いしたいと思います。

【協 議】

(1) 小美玉市小中一貫教育基本方針について

委員長 事務局から説明をお願いしたい。

資料1に基づいて、事務局より説明

事務局 小美玉市小中一貫教育基本方針については、教育委員会事務局が作成し、6月の定例教育員会で策定された。その後、9月の市議会の文教福祉常任委員会、全員協議会において説明の時間をいただき、市議会議員の方々にも理解いただいたところである。

概略を説明させていただく。

1. 小美玉市の目指す学校教育
2. 小中一貫教育に取り組む背景
3. 小中一貫教育で期待される教育的効果

1～3については、後ほど資料を読んでいただきたいと思います。これまでも話題に上ってきたことだと思つるので、理解いただけたらと思う。ここでは、本市が小中一貫教育を推進していくための基本的な考え方を説明させていただく。まず、市内全小中学校で小中一貫教育を推進していく。これは県内でもかなり先進的な取組といえる。また、これからの学校統合の進行に伴い、各地区や中学校区の特色、施設設備の条件を踏まえ、資料のP4にあるとおり、3つのタイプの小中一貫教育を進めていく。玉里中学校区では、小学校1年生から中学校3年生までの児童生徒が同じ校舎で共に学校生活を送る義務教育学校としての開校を目指す。ここでは、義務教育9年間を通した教育課程を編成し、学年3区分制を導入していく。また、小川南中学校区、小川北中学校区では、小中学校は隣接または併設するメリットを生かして、小中一貫教育を進めていく。さらに美野里中学校区では、既存の立地や施設の条件の下、連携型の小中一貫教育を推進する。これらの基本的な考え方を基に、学校統合のスケジュールを鑑み、段階的に全市を挙げて小中一貫教育を推進していく。そのために平成31年度開校予定の小川小と橘小の統合小学校と小川南中学校を隣接型・併設型モデル校として、また平成33年度に開校予定の玉里地区の義務教育学校を一体型モデル校として、重点的に先行研究や実践を積み重ねていく。それらの成果と課題を市内全小中学校に共有し、波

及させていきたいと考えている。そのために既に動いている統合校整備・開校に係る建設準備委員会等を生かしながら、資料P6にあるような組織を立ち上げ、本市の小中一貫教育を推進していく。全市を挙げての小中一貫教育の推進を小美玉市の学校教育の大きな特色の一つとして位置付け、次代を担う子ども達の夢と未来を切り拓いていきたいと考えている。

委員長 説明に対して、意見等があればお願いしたい。

委員 P6に小中一貫教育推進のための組織という項目がある。その組織と玉里地区小中一貫教育学校建設準備委員会との関連付け、位置付けはどのようになっているのか。

事務局 P6にあるように、現在、大山校長と羽鳥校長が中心となって進めている玉里地区小中連携・小小連携推進委員会が図の中でいうと、中段の左側、玉里地区小中一貫教育推進委員会（仮称）と重なる形になる。玉里地区小中一貫教育学校建設準備委員会は、P6下欄の学校関係者、地域住民等による組織として位置付けられている。それらを関連付けながら、小中一貫教育の情報をこれから立ち上げる上欄の小美玉市小中一貫教育推進協議会、美野里地区、小川地区も含め、それぞれの進捗状況等の情報交換をしながら、全体で共通理解の下で、進めていくための組織となる。

(2) 玉里地区小中連携・小小連携推進委員会について

委員長 玉里地区小中連携・小小連携推進委員会について、副委員長より説明をお願いしたい。

資料2に基づいて、副委員長より説明

副委員長 玉里地区小中連携・小小連携推進委員会の取り組みについて、資料2を基に説明させていただく。

この推進委員会は、統合の33年度までのスパンの中で、少しずつ教育課程や教育運営のすり合わせを行い、その方向性や方策を決めていくための委員会となっている。

まず、資料2-1には、学校経営・学校運営の構想図、グランドデザインを記載した。本来であれば、平成33年度に新しい学校の校長が作成するものだが、児童生徒や地域の実態などを取り入れ、校長部会で協議し、重点的に取り組んでいくことをタタキ台として作成した。前回、「新設校のコンセプトは？」という話があったので、上欄「新設校の建設に当たって」を読み上げたい。

『「未来の教育の展望は、この玉里地区に新しく建設される学校にある。」これは、地域の人々や教職員、保護者の思いや願いを受けている。学校は、

地域によって成り立ち、地域の子どもたちのためにある。そこで学ぶ児童生徒が「真剣な瞳と輝く笑顔」をもって学校生活を送り、成長していくことにより、やがては地域や社会のために貢献していく。そんな「主体性、創造性、感性」のある児童生徒に育てていきたい。また、地域のよさ（教育力）を生かした創意工夫ある取組により、「地域に根ざした魅力あふれる義務教育学校」をつくっていきたい。』

子どもたちのどのような力を育てていくか、具体的に取り組むこと、重点的に取り組むことなどをまとめたものになっている。例えば、左下に「郷土教育の充実」という記載がある。この玉里地区の素晴らしい自然環境や資源、郷土に残る文化や歴史などは、体験を通してしっかりと学ばせたいと思う。その中で「郷土愛」を育成していきたいと考えている。

続いて、資料2-2、組織図をご覧いただきたい。去る7月22日に、玉里地区の小中学校の教職員全員が玉里小に集まり、「豊かな心」「確かな学力」「健やかな体」の3つの「プロジェクト会議」をもった。各プロジェクトで話し合ったことについては、資料2-3に記載した。

資料2-4については、全体で協議する日もなかなか取れないので、今後は校長部会や教務主任部会、生徒指導部会などで4校が集まり、具体的に話し合っていきたいと考えている。

資料2-5については、職員研修資料であり、義務教育学校の概要を皆で勉強したものになっている。

資料2-6は、各学校の沿革史をまとめたもの。資料2-7は、各学校の現在の校舎の様子と教育スローガンをまとめたものになっている。

小中連携・小小連携には、教職員の意識や意欲を高めていくことが大事なので、教育委員会の指導をいただきながら、今後も定期的に話し合いもち、これからも先を見据えた取り組みをしていきたいと思う。また、建設準備委員の考えや提言等も参考にしながら、小中連携・小小連携を図っていきたいと考えている。

（3）（仮称）玉里地区小中一貫校基本構想について

委員長 （仮称）玉里地区小中一貫校基本構想について、説明をお願いしたい。

資料3に基づいて、青山建築設計事務所より説明

青山建築 資料3-1をご覧になっていただきたい。

「基本構想とは」とその流れについて説明したい。学校施設は児童・生徒の学習・生活の場であり、学校教育を行うための基本的条件の一つとなっている。また、地域コミュニティの拠点であるとともに地域防災拠点としても重要な役割を担っている。学校がこのような役割をはたしていくためには、総合的に検討し、方策の確認をすることが必須となる。このようなことから、

学校づくりは基本構想、基本設計、実施設計と段階を追って進めていく。下図が基本構想から基本設計、実施設計、施工、完成に至るまでの流れになっている。現段階は基本構想なので、図の左側を説明させていただきたい。基本構想は、学校の設計・工事を進める上での根幹となるもの。教育的観点、利便性、機能性、環境への配慮等の視点から、小美玉市小中一貫教育基本方針を踏まえて、必要な機能、施設及び手法を示す整備方針、建設場所、施設の規模及び周辺施設整備に関する考え方を示す施設計画、スケジュール及び概算工事費を定める。業務の流れとしては、課題の整理、学校施設づくりの基本理念、学校施設づくりの目標、施設整備の基本方針、基本構想のまとめという流れになっている。基本構想での図面表記方法は、エリア分けの形、下図の表現を使いたいと考えている。それは、基本設計、実施設計に向けて、段階的に細かく表現していく手法をとらせてもらいたいと思っている。続いて資料3-2をご覧ください。左側が基本構想の構成、右側がスケジュールになっている。構成を説明したい。「Ⅰ背景」、「1 学校の現状と学校施設の役割」。その中の項目として、各校沿革、児童・生徒数について、学校施設、学校施設の役割となっている。10月には、それらを提示できるのではないかと考えている。続いて、「Ⅱ小中一貫教育の計画」。「1計画の経緯」、「2目的及び必要性」、「3これからの取り組み」、「4配慮すべきこと」となっている。こちらも10月に提示できるのではないかと考えている。「Ⅲ基本構想」、「1施設整備方針」、「2配置構成計画」、「3平面構成計画」となっている。「Ⅲ基本構想」には参考資料がある。「1施設整備方針」は、参考資料のP3中段「(3)基本コンセプトのメインテーマ」がそれにあたる。「2配置構成計画」は、参考資料のP5中段にある敷地の図、校舎が色分けされた4つの案のように提案したいと考えている。「3平面構成計画」は、参考資料のP7中段の図のように提案させていただきたいと考えている。

資料3に戻りたい。「Ⅲ基本構想」は、9月にアンケート調査について、10月にアンケート実施結果について、11月に施設整備方針(素案)について、配置構成計画(案)について、平面構成計画(素案)について、12月に施設整備方針(案)について、平面構成計画(案)について提案したいと考えている。「Ⅳ工事費概算」、「Ⅴスケジュール」、「Ⅵ今後の検討課題について」は2月に報告したいと考えている。

委員長 説明に対して、質問等があればお願いしたい。

委員 聞きづらい質問だが、前々回の準備委員会の際にコンサルタント会社は何社かあり、そこで見積り合わせをするという話だったと思う。今回、青山建築設計事務所を選んだ理由はこういったものなのか。

事務局 指名競争入札を行った。これまでに学校建設に携わった数社を市役所が指名し、入札によって最低価格を提示いただいた青山建築設計事務所に決定し

た。

委員 構想も何もない状態ではないか。今から構想を作っていくのだと思うが、どのような内容なのか。

事務局 この構想づくりのパートナーとして様々な業務を支援していただく依頼をしている。それに係る費用を各社に投げかけ、最低価格をいただいた青山建築設計事務所に決定した。今回の業務委託内容としては、基本構想づくりを建設準備委員会、市と三位一体となって、一緒にパートナーとなって作っていただくことで依頼している。

委員 青山建築設計事務所が過去に造った学校を参考に見学することも出来るだろうか。

青山建築 現在、つくば市のみどり野学園の工事監理をさせていただいている。手がけた学校としては、高校では県立岩瀬高校、小学校であれば堅倉小学校。また、私立の学校では守谷にある東風小学校などがある。もし、見学を行うのであれば、連絡を取ることも可能かと思う。

委員 これからも何ヶ所か見学に行くことになるかと思う。そういったことも入れていただけると良いと思う。

委員長 身近なところでいうと、小美玉市内で堅倉小学校がある。一番見学しやすいところではある。

委員 スケジュールについて。青山建築設計事務所にはアイデアをいただけたと思うが、準備委員会では提案いただいたものに対し、どのレベルまで協議できるのか。時間がないということがある。あと4ヶ月、5ヶ月しかない。その中で我々は2ヶ月に1回ほど集まると思う。ほとんど協議できないのではないかと思う。どういった場で論議を行い、この時期には最終結論をするという形になるのかと思う。そのような具体的な進め方を教えていただきたい。

事務局 まずはタタキ台という形で青山建築設計事務所の協力の下、事務局から委員に様々な情報提供をさせていただきたいと思っている。そして、その資料は、次回の準備委員会が開催される何日か前に手元に配置するようにしたい。指摘があったとおり、集まれる時間も限られている。集まった際にも、限られた時間の中で協議しなくてはならないので、事前に資料を熟読いただき、準備委員会に様々な意見等を持ち寄っていただけて進めていきたいと思っている。限られた時間だが、「時間が少ないから曖昧な中身でいい」ということではなく、いかに有効活用するかについては事務局と委員の協力関係の下で議論を行い、納得した形でまとめていきたいと思う。そこに向けて協力して進めていきたいと思っている。

委員 やはり良いものを作っていきたいので、そういった進め方をお願いしたい。

委員長 資料4、5について事務局より説明をお願いしたい。

資料4、5に基づき、事務局より説明

事務局 資料4について説明させていただきたい。このアンケート調査は、先ほど青山建築設計事務所が説明した基本構想の協議の参考とするために実施する。資料4-1をご覧ください。ここでは、アンケート案の概要をまとめさせていただいた。調査対象は、玉里地区の小中学校の保護者、教職員、児童生徒としている。児童生徒は、アンケート趣旨の理解度が高いと思われる小学校高学年と中学生を対象としている。また、調査期間を10月上旬頃の予定としたいと考えており、1週間程度で回収したいと思う。実施方法は、各学校で配布・回収の協力をお願いしたいと考えている。調査結果については、次回の建設準備委員会に提示したい。内容について別紙、資料4-2~4となっている。なお、アンケートについては無記名で行いたい。

では、資料4-2、保護者用をご覧ください。保護者用のアンケートが一番多くの問いを設けている。アンケートは、保護者用、教職員用、児童生徒用と3つの種類があるが、はじめに保護者用の説明をさせていただく。問1と2は、集計後の分析のため、お住まいの小学区、お子さんの学年を記入いただく問となっている。問3は、保護者アンケートのみの問となっており、「地域として教育施設以外に小中学校に求める機能・役割」を答えていただくものとなっている。問4も保護者のみとなっており、「地域住民としての学校との関わり」に関する問としている。問5から7は、教職員用、児童生徒用と共通となっている。問5は「新しい学校に通う児童生徒をイメージするキーワード」を尋ねるもの、問6は「玉里地区らしい学校をイメージするキーワード」を尋ねるもの、問7は「現在の学校施設に足りないもの、必要だと思うもの」を尋ねるものとなっている。問5~7は保護者用、教職員用、児童生徒用で共通だったが、問8は保護者用と教職員用で共通の問いとなっている。これは「新しい学校で充実させたいもの」を尋ねるものとなっている。問9は保護者用のみの問となっており、「その他に学校施設づくりに関する意見」を記入いただく自由記述としている。

続いて、資料4-3をご覧ください。資料4-3は教職員用のアンケートになっている。問1は、勤務している学校を記入いただくものとなっている。問2~5は、保護者用のアンケート問5~8までと共通となっている。

続いて、資料4-4、児童生徒用のアンケートをご覧ください。問1は通っている学校名を尋ねるもの、問2は学年を尋ねるものとなっている。問3~5は、保護者用アンケートの問5~7までと共通となっている。

また、資料5について説明させていただく。資料5は、小美玉市の教育行政の計画を作成するために実施したアンケートの概要となっている。具体的には、「小美玉市教育振興基本計画」、「小美玉市生涯学習推進計画」、「小美玉市スポーツ推進計画」を市教育委員会で策定するにあたって実施したアンケートの概要となっている。玉里地区の小中一貫校基本構想に関連するもの

は、上段の「小美玉市教育振興基本計画」に係るアンケート調査。このアンケートは既に終えており、その結果についても玉里地区の小中一貫校の協議の参考になると考え、提示させていただいた。

では、資料4の1に戻っていただきたい。資料4-1に沿って、調査対象、調査期間、実施方法、調査結果、アンケートの内容について説明させていただいた。それぞれについて協議いただき、方向性を出していただきたいと思う。

委員長 アンケート調査について、特に資料4について意見を伺いたい。

委員 玉里地区から石岡の学校に通っている子どもがいると思う。そういった家庭にこのようなアンケートを取ると、違った意見が出るのではないかという気がしないでもない。また、保護者にはその他の自由記述の記入欄がある。先生方にも入れた方が良くはないか。

委員長 今の意見に対して、事務局で対応可能か。

事務局 玉里地区在住で石岡の学校に通っている家庭へのアンケート調査実施については、実施可能かを確認して回答したいと思う。また、教職員用アンケートに自由記述欄を設けることについては対応が可能なので、そういった方向性を建設準備委員会を出していただいた場合はそのように対応したい。

委員長 石岡に通っている家庭については、もう少し時間をいただきたいということだった。教職員用の自由記述欄に関する意見はいかがだろうか。

－賛成多数－

委員長 幅広い意見を求めるとし、教職員用にも自由記述欄を設けることとする。その他にアンケートについて意見はいかがか。

委員 アンケートの内容について、保護者用の問7は、「あてはまるもの3つに○をつけてください」となっているが、なぜ3つとしたのか。こういったものがあつたら良いというイメージをすることは自由だと思うので、全てが叶うかどうかは別として「あてはまるもの全て」とした方が、自由に発想しやすいのではないかと思う。

委員長 他の委員はいかがだろうか。3つにするのか、全てにするのか。

委員 集計してまとめる際には、3つというようにした方が良くと思う。

委員 「全てに○を」とすると、項目の全てに○をつけてしまうと思う。

委員 まとまらなくなってしまうということか。

委員 そういうことになると思う。この中で全てほしいと思うが、優先順位をつけて1番、2番、3番とするか、5つにするのか、3つにするのかということもあると思う。

事務局 委員の意見にあったように、いくつも○がついた結果、聞きたいことがぼやけてしまうことを危惧し、このように提案させていただいた。

委員 では、よく厳選し、これは外せないというものを3つ選んでということか。

事務局 委員で3つが良いか、導いてもらえればと思っている。

委員 ○をつけないから行わないということではないだろうと思う。

委員長 案の通りということによろしいか。
—異議なし—

委員長 では、そのようにしたいと思う。
その他について、意見はいかがだろうか。

委員 保護者の立場で発言をしたい。私の子どもは幼稚園に通っている。この後に小学校に通うことになる。「こんな学校に子どもを入れたい」という想いを幼稚園等の保護者は持っているのではないかと思う。幼稚園、保育園の保護者にも可能な限り、アンケートを実施すると良いのではないかと思う。

委員長 事務局ではどのように考えるか。可能だろうか。

事務局 市立の幼稚園については、すぐに協議ができると思う。私立の幼稚園、保育園は、別途協議をさせていただきたい。

委員 未就学児の保護者代表としては、どのように関わられるかを考えていた。委員の意見のように、ぜひ行ってほしいと思う。

委員長 未就学児の保護者にもアンケートを実施するということによろしいか。
—賛成多数—

委員長 では、そのように対応していただきたい。
他に意見はいかがだろうか。

委員 児童生徒用のアンケートについて。問5「現在の学校施設に足りない(必要)と思うものは何ですか。」となっている。時期として早いかもしれないが、「どのような遊具が欲しいですか。」という問があっても良いのではないかと思う。

委員長 他の委員はいかがか。

委員 児童生徒用のアンケートは、小学5、6年生を対象としていると思う。現在の小学5、6年生にアンケートを取ることも意味のあることかと思うが、平成33年度には、その子達は高校1、2年生になる。それについては良いと思うが、出来れば中学年の3、4年生は家庭に持ち帰り、親に聞きながら「こういうものが良いな」ということを記入してもらうことが本当のアンケートではないかと思う。アンケートは家に持ち帰って記入をするのか、それとも教室で先生の指導の下、記入する方向なのか。家庭で保護者から話を聞きながら記入するという形であれば、3、4年生もできるのではないかと思う。

委員長 事務局ではどのように考えていたか。

事務局 想定では、学校のホームルームや朝の会などの時間を活用していただき、担任の先生がいる時に記入すると考えていた。

委員長 学校で実施するということについて、意見はいかがか。

委員 5、6年生は先生の誘導でホームルームで行うということも良いかと思う。ただ、平成33年には高校生になってしまうので、中学年の3、4年生がアンケートを家に持ち帰り、家庭で様々なことを保護者から聞きながら、子ども達なりの考え方を反映させても良いのではないかという気がする。

委員長 中学年の3、4年生は家に持ち帰っても良いのではないかということだった

- が、他の委員はいかがか。
- 委員 補足になると思うが、その結果が反映されるかどうかは別として、自分達がこれから学ぶ学校をつくっていく一端を担うという意識が出てくると思う。参加しているという意識が出てくるのではないか。
- 委員 保護者のアンケートがある。保護者と子どもが一緒に行うアンケートはどんなのだろうかと思う。保護者は保護者用のアンケートを行うので、それに「子どもと一緒にやってほしい」ということを記載するという方法もある。
- 委員 一緒に考えることで、1枚で済むようにということ。
- 委員 それも良いのではないかと思う。先ほど、ホームルームという話があった。ホームルームにおいて「こういった学校をつくる。何がほしいか。」という意見のまとめ等を行うと、皆が参加している形になってくるのではないかと思う。子ども達の案を出してもらい、低学年なら低学年の意見が出てくると思う。
- 委員 こういった遊具がほしいということを知ることが可能になる。
- 委員長 今回の意見に対して、学校関係の意見はどうだろうか。
- 委員 ホームルームも良いと思うが、その場合はどうしても何点かに絞られてしまい、少数派の意見が挙がってなくなる可能性があると思う。アンケートを行い、少数の意見も残った方が良いのではないかと思う。どの学校においても同じ意見になってしまうと、一部の意見になってしまうことがある。
- 委員長 中学年の子達は、家庭に持ち帰った方が良いということか。
- 委員 ホームルームで話し合いをすることは厳しいと思うということ。
- 委員 アンケートはアンケートで実施し、皆で考えることはどうか。
- 委員 それは大丈夫だと思う。
- 委員 話し合うことはどうなのか。
- 委員 そうなると、多数派の意見になってしまう可能性がある。多くの意見を知りたいという考えがあれば、様々な意見が出てくる方が良いのではないかと思う。
- 委員長 家庭での実施か、学校での実施かという点ではどうだろうか。
- 委員 アンケートの実施は学校でも大丈夫だと思う。
- 委員長 アンケートの実施については、学校での実施を希望するという意見が良いか。アンケートを家庭で実施する、学校で実施する、ホームルームで話し合いを行うといった意見が出たが、学校側に任せるということで良いだろうか。ホームルームでまとめるということはしないということで良いか。
- 委員 話し合いはしない方が良いという意見。アンケートを学校で実施することもできる。家庭に持ち帰って実施することもできると思う。
- 委員 3、4年生にアンケートを実施する場合、問5は自分達が本当に必要と思えるのだろうかと思う。この項目では判断が難しいのではないか。もし、子ども達の子どものらしい学校に対する夢のような部分を拾い上げるのであれば、「足りない」という意識よりも「あると楽しいだろうな」「生活しやすいだ

ろうな」という発想の意見を吸い上げると良いと思う。ただ、それは夢が多く入ってくることになり、現実的なものから離れてしまうこともあるかと思う。

委員長 問5を「足りない」から「あった方がよい」という表記に変更してはどうかという意見だった。

委員 可能であればお願いしたいということで発言した。項目について、3、4年生に難しい内容が多くあるのではないかと思う。

委員 5、6年生の場合もスロープなどが分からないと思う。どういった意味なのかということから始まると思う。

委員長 アンケートを学校で実施する場合は、先生が説明しながら行うことになると思う。3、4年生のアンケートを実施するかということも出てきた。いかがか。

委員 児童向けのアンケートでは、聞きたい内容が分かれば良いと思う。問5の文言について難しいということだったが、3、4年生では問4、イメージを聞くということも高度なことであり、難しいと思う。3、4年生を対象とする場合、その他にも文言の見直しをしなくてはならないと思う。

委員 平成33年に新しい学校になるということを経験から聞いていたとしても、子どもの心が置き去りになってしまっているのではないかという思いがある。なので、児童生徒用は問4、5が難しいのであれば、変更を行い、子ども達が「将来〇年生になった時、玉里で1つの学校になる」ということが分かるようなアンケートにしてもらえれば良いと思う。

委員長 児童生徒用アンケートの間を変更するという意見が出た。他の委員はいかがか。

委員 このアンケートの設問は他の地域で実施されたものをそのまま使っているのか、オリジナルなのか。

事務局 アンケート案を作成するにあたり、様々な自治体で実施したアンケートを参考にしたが、それぞれのを組み合わせて設問にしている部分もある。そういった観点からいえば、小美玉市オリジナルのものに近いのではないかと考えている。

委員 例えばエレベーターなど、実態にそぐわないものもあるので、質問させていただいた。

委員長 実態にそぐわないものがあるという意見があった。
アンケートを3、4年生にも実施するのか。その場合、設問を変更するのかという2点で意見をいただきたいと思う。

委員 その点について、挙手を求めてはどうか。

委員長 では、3、4年生に実施した方が良いと思う委員は挙手をお願いしたい。

反対の委員は挙手をお願いしたい。

では、反対の委員の意見をお願いしたい。

委員 5、6年生は確かに平成33年度には卒業してしまっているが、現在の児童

生徒の意見は十分に取ることができると思う。

委員長 今の意見に関して意見はいかがか。

委員 確かにそうかもしれないが、子ども達にとって、自分達の意見が反映されていることが分かると、中学2、3年生になった際に自分達も携わってきたという気持ちが生じると思う。なので、内容は別として、そういった機会があると子ども達には良いのではないか。

委員 アンケートはホームルーム等、クラス内で行うということで良いか。

委員長 実施するというのであれば、そうなると思う。

では、両方の意見を聞いたので、再度確認したいと思う。

3、4年生にもアンケートを実施した方が良いと思う委員は挙手をお願いしたい。

—挙手多数—

委員長 では、3、4年生にもアンケートを実施することとする。

また、問4、5を変更した方が良いと思う委員は挙手をお願いしたい。

—挙手多数—

委員長 事務局で設問を変えることはできるだろうか。

事務局 3、4年生に分かる文章の作成は難しいが、先生の力をいただければ作ることが可能だと思う。ただ、児童生徒用と保護者用と教職員用のアンケートにおいて、同じ問としている。問を変更した場合、アンケート対象による違いが分からなくなる。

委員 児童生徒用の問5、保護者用、教職員用における共通の問は、施設に関する問となっている。この問は間口が広すぎると思う。回答には学習に関わるもの、学校環境に関わるものなどが混ざっているので、どういった点に重きを置くかによって選択が変わってきてしまう。なので、種類分けを行い、選択できるようにすれば良いのではないか。例えば、学習に必要なものに関する項目から1点、学校環境に関する項目から1点、その他の防犯に関するもの等の中から1点といったようにしてはどうか。同じ3点を選ぶのであれば、その方が良いのではないか。

委員長 今の意見に対していかがだろうか。

—賛成多数—

委員長 事務局で対応は可能か。

事務局 対応可能だと思う。

委員長 では、この設問でよろしいか。

—異議なし—

委員長 問5に関しては、種類分けを行うということとしたい。

その他にいかがだろうか。

事務局 先ほど3、4年生にアンケートを取る目的の1つとして、児童生徒達が学校建設のプロセスに携われるというメリットがあるという話があった。これから学校を作っていく過程においては、アンケートだけではなく、名称の募集

に関わるなど、子ども達の学校づくりに対する多くの参加機会を設けることができる。委員には、そのアイデアを数多くいただければと思うのでよろしくをお願いしたい。

委員 遊具についてはいかがだろうか。3、4年生にアンケートを実施するのであれば、3、4年生対象のアンケートでは遊具の名前を出していくとどうか。欲しい遊具を3つ選んでもらってはいかがか。

委員長 今回の意見について、他の委員はいかがか。

委員 それは基本構想に間に合わなくても良いと思う。第2弾でも良いと思う。一緒に行くと納期がないとったことになってくるかと思う。先ほど話があったが、まだ先がある。様々なタイミングで子ども達に参加してもらうことが必要だと思う。次の段階までに細かいところを詰めていくアンケートを取る、子ども達に参加してもらってはいかがだろうか。

委員 良いと思う。

委員長 では、アンケートに遊具の名前は入れないこととしたい。その他にどうだろうか。

委員 設計事務所は入札で安かった会社が入ったのだと思う。学校はデザインによって、全く変わってきてしまう。青山建築設計事務所が今まで造ってきた学校のデザイン等を今の段階で見せていただいた方が良いのではないか。設計事務所はたいていパンフレットを持っている。設計事務所にも色々な特徴があるので、青山建築設計事務所の力量を委員に示していただきたい。下手な設計はしてもらいたくないと私は思っている。夢のある、良い学校にしてもらいたい。なので、内容をパワーアップし、それを一つの形にできる力量があることを私は信じたい。

事務局 青山建築設計事務所のこれまでの実績や会社の概要等をまとめたパンフレットがあることが確認できた。そういった資料を次回の会議までに用意できると思う。さらに発展すれば、実際の校舎、学校の見学に行くことも検討していきたい

事務局 アンケートについて1点確認させていただきたい。幼稚園、保育園の保護者にアンケートを実施することになった。保護者用の問7、「あった方が良いもの」と直すが、「現在の学校施設に」という箇所が理解できるかを確認したい。

委員 「新しい学校施設に」としてはどうか。

委員長 そのように変更したい。

事務局 また、変更の部分がよくある。委員が変更後のアンケートを確認できる時間を設けた方が良いか、事務局に任せていただくか確認したい。

委員長 いかがか。

委員 任せて良いのではないか。

委員 伝えたいことは分かったと思う。

委員長 では、事務局に任せることにしたい。

【その他】

事務局 資料6については、7月11日の千葉県成田市下総みどり学園視察に参加した委員からいただいた意見、感想等をまとめたものになっている。ソフト面、ハード面の両方について明記している。事前に配布したものと合わせて、読んでいただいていると思うが、今後の玉里地区の小中一貫校を整備する上で参考にしていただきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

20:23 閉会